

## 4 肥満細胞と脂質メディエーター

### The roles of lipid mediators in mast cell-associated skin homeostasis and diseases

武富芳隆

TAKETOMI Yoshitaka  
公益財団法人東京都医学総合研究所  
脂質代謝プロジェクト主席研究員

村上 誠

MURAKAMI Makoto  
公益財団法人東京都医学総合研究所  
脂質代謝プロジェクトプロジェクトリーダー,  
AMED-CREST

#### Summary

近年、皮膚肥満細胞の成熟、活性化や自然免疫応答は、肥満細胞とその周縁の局所環境のクロストークによって調節されること、これらの調節には従来炎症の増悪因子として位置づけられてきたアラキドン酸代謝物が関わるということが明らかとなってきた。これらのアラキドン酸由来の脂質メディエーターは、①血管透過性や免疫細胞の遊走などを介して、または②型自然免疫の誘導を促進することで異物の除去に努める、③肥満細胞自身や自然免疫応答の持続的な活性化にブレーキをかけることで自然免疫の恒常性を維持する、あるいは間接的に獲得免疫を調節する役割を持つものと考えられる。

#### 脂質メディエーター

脂質メディエーターはオータコイド性因子であり、組織内の局所で必要ときに微量産生され、周縁環境中で生理活性を発揮する。脂質は局所に安定に留まることなく、速やかに分解系による制御を受ける。

#### 皮膚アレルギー

接触皮膚炎での主な免疫応答はTh1 応答、アトピー性皮膚炎はTh2 応答である。どちらの獲得免疫応答にも皮膚樹状細胞の抗原捕獲とリンパ節への遊走、リンパ節での抗原提示によるT細胞の分化増殖が必須である。

#### KEY WORDS

脂質メディエーター／肥満細胞／局所環境／免疫応答／皮膚アレルギー